

Topics 理数科 1 年生が乗鞍岳野外研修を行いました。

7月26日（火）に理数科1年生が乗鞍岳で野外研修を実施しました。岐阜県は海拔0mから3,000mまで標高差が大きな県です。乗鞍岳はバスで2,700mまで登ることができ、車窓からは標高の変化とともに植物の種類が変化していくことが観察できる貴重な場所です。



気温13℃ほどで、雨と霧のあいにくの天気でしたが、3グループに分かれ、乗鞍岳畳平のお花畑を自然観察指導員の案内で見学しました。その後、グループごとの観察テーマにしたがって観察を行いました。



場所によって花の咲き具合が違っていました。

雪解けの速かった場所ではもう夏の花が終わり、実がついているものもありました。





谷浴いのお花畑には多くの高山植物が咲いていました。
ミヤマキンポウゲ（黄色）
ハクサンイチゲ（白色）

コバイケイソウ（中央白色）
ミヤマキンポウゲ（黄色）
モミジカラマツ（手前白色）



豊平の北にある魔王岳の斜面には高山植物の女王と呼ばれるコマクサが咲いていました。コマクサは砂利が分布する斜面に分布する植物です。

お花畑の周囲や、山の斜面はハイマツで覆われています。樹高は1m程度で、幹が斜面を這うように広がり、どこに根があるのかわかりません。積雪に適応したと考えられます。





ライチョウの雌親（左）とヒナ（右に2羽）

ライチョウの親は5羽のヒナをつれて高山植物の間を、エサをついばみながら移動していきました。天気が悪い日は天敵のタカが飛ばないためライチョウが現われやすいそうです。



霧の中、木道の上をライチョウのヒナが歩いていました。

ライチョウは絶滅が危惧されています。昨年からは卵を採取し、動物園でふ化させて育てる試みが始まっています。天敵であるタカやオコジョだけでなく、地球の温暖化や、山に登ってきたキツネやサルなどの影響があるようです。

乗鞍岳は自然保護のためマイカー規制により、一般車の乗り入れができません。そのおかげで、観光客による踏み荒らしなどが減り、コマクサなどの高山植物が増えているそうです。一方、セイヨウタンポポなど平地の植物も見つかっています。氷河期からの自然を大切にしていきたいものです。